

令和4年11月16日

大阪府立柴島高等学校 第2回 学校運営協議会 議事録

1 会議日時 令和4年11月16日(水) 14:00~16:00

2 開催場所 大阪府立柴島高等学校 校長室及び各教室

3 委員

	氏名	資格	所属	出欠
会長	森田 英嗣	学識経験者	大阪教育大学 教授	○
副会長	山本 了照	地域の関係者	大阪市立淡路中学校 校長	×
委員	戸田 和雄	その他の関係者	大阪府立柴島高等学校後援会 会長	×
委員	武田 緑	地域の関係者	Demo(教育ファシリテーター・武田緑事務所) 代表	○
委員	表西 貴文	地域の関係者	大阪市新大阪人権協会 評議員	×
委員	畑中 一美	保護者	大阪府立柴島高等学校PTA 会長	○

4 事務局(学校側)

原田 信尚(教頭) 三輪 真嗣(首席) 内田 清彦(首席) 中川 智子(人権教育主担)
堀 博俊(事務長) 森田 正良(校長)

5 次第

- 校長あいさつ
- 会長あいさつ
- 授業発表会動画視聴
- 授業見学
- 協議案件
 - ・授業見学のふりかえり
 - ・スクールミッションについて
 - ・その他

6 協議の概要

- 授業見学のふりかえり
会長) 授業を見学して、「総合学科は面白い」とあらためて思った。特に、実学を通して学んでいるところがいい。大人の教育は「何のために学ぶのか」が明らかであるのに対して、子どもの場合はその辺りが見えにくい。しかし、柴島高校では、社会に役立つという実感が学ぶ力になるということが確認できる。そのような科目を設定し、授業の準備を周到にされている。みなさん熱心に取組んでおられるので、感心した。

委員) 自分で選んだ授業を自分たちでつくり出そうとしているところが見られてよかった。自分の高校ではこういうのがなかったので、羨ましかった。

委員) バリエティーに富んだ授業があるのが魅力的だ。(卒業生である) 自分は受験科目を中心に選択したが、もっと自由に選べばよかったと思う。

事務局) 「家庭園芸」の授業では生徒が自分たちで考えて展開できるよう意識している。

事務局) 必修の授業で生徒が意義を見出して食いつくことができるかどうかポイントだろう。「卒業研究」は担当していて非常に面白い。長年やってきたので良いものになってきており、いろんな成果が出ている。

事務局) 「手話」の授業は生徒のモチベーションが高い。聴覚障がいのある生徒もいることで、生徒間の関係性が増え、当該生徒の自己肯定感も高まったのではないかと思う。また、地域連携の一環として、地域の小学校に出前授業を行うとともに、聴覚支援学校との交流を行う予定。

校長) 現在、全ての教員の授業観察を行っているところだが、たしかに授業によって温度差があることは課題だと感じている。ただ、多くの教員がICTやグループワークを採り入れるなどの工夫をしており、生徒たちはそのスタイルに慣れているので、他の授業でも主体的に取り組むことができる。そのような成果や課題の共有できる場を校内でつくっていききたい。

事務局) 初任者や英語中核教員の研究授業を実施したが、時代の流れなのか、みなチョークを使わずに授業をしている。一方、非常勤講師にICTが保障できていないという課題もある。

○スクールミッションについて

事務局) 本校では、スクールミッションに当たるものとして、かつてはマスタープランや将来構想という形で位置づけており、周年行事ごとに検討を重ねてきた。50周年を控えていることもあり、その流れも踏まえて、とりまとめの議論を進めてきたが、これまでの取組を超えるものはなく、充実・進化させていこうという内容になっている。例えば、これからの時代を生き抜くためには常に学び続けることが必要だが、それには総合学科のシステムが合理的である。また、人権教育については、長らく「柴島高校だから」と言われてきたが、欧米流の人権が外圧的に実現を迫られていることもあり、本校の取組が社会全体の取組になってきた。このように、今までの取組を進化させていくというのが校内の議論の大勢となっている。新たに盛込んだものとしては、「創造力」つまり新しい価値を見出すクリエイティブな力を生徒につけさせたいということがある。一方で、平和や環境については、言葉では掲げてきたが、実際にはほとんど取組めていなかった。やらなくていいということではないが、「学校の強みとして進めていくか」という意味で、優先順位を下げている。

委員) 示された案には、何の違和感もない。「いいな」と思って読ませてもらった。

校長) 本校がこれまでやってきたことは、今でも全く色褪せていない。これからも自信を持って進めていくというのがこのスクールミッションだと考えている。

会長) 柴島高校の場合、今までやってきたことを確認し、これからもやっていくということで良いと思う。質問だが、スクールミッションとスクールポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーとの関係は？

校長) 全て視野に入れて議論してきたが、府教育庁から「今回はスクールミッションについて様式に沿って作成せよ」と指示があったので、それに落とし込んだ。次はスクールポリシーの作成になる予定。やがて順次指示があると思うので、それに基づいて進めていくことになるだろう。

事務局) まずはスクールミッションからということ。憲法のようなものと理解している。

委員) 今の社会で求められているコミュニケーション力については、「共生協働力」という表現に含まれるのか？

事務局) その通り。

委員) 環境について今後どうするのか？

校長) やらないということではない。例えば、本校でもSDGsについて学んだり取組んだりしているが、当然そこでは環境問題と切り離しては考えられない。スクールミッションとしては、あれもこれもと盛込んで総花的になるのはよろしくないと考え、記載していないということで、ご理解願いたい。

委員) 「集中と選択」ということで良いと思う。

委員) スクールミッションとしてはそれでいいと思う。ただ、環境問題に取組まないのは、やはり今の流れに反している気がする。学校での取組を是非お願いしたい。長野県で面白い取組があるので、参考になると思う。

委員) 授業として環境問題に取組むものがあったらいいのではないかな。

事務局) 本校は、環境だけでなく理系も弱い。そのような中で、環境に関わる科目がなくなってしまった。今後の課題だと考える。

事務局) 来年度から通年認定となり、新たな課題も出てくる。

委員) 前後期で希望の調整をしていたと思うが、それができなくなるのでは？

事務局) 科目の整理や群の変更というテクニカルな部分で不本意選択を減らすことに繋がると考えている

○その他

委員) 学校の施設設備について、何かPTAとしてサポートすることができればと思っている。例えば、トイレも全面改修はしないのか。

事務局) 前回のトイレ改修では2000万円かかっている。

事務局) 施設設備で言えば、自習室の整備の方が優先だと考えている。

事務局) 50周年記念事業として施設設備の改修を考えているが、予算額を超えるアイデアがあり、PTAの協力を仰げればと話しているところ。

委員) PTAが留保しているお金を残さず、有意義に使いたい。

事務局) 生徒会でも施設設備改善の声があり、雨天時の水溜りで困っていたので、路面の舗装が要求として出された。その結果、この要求は学校として実現することとなった。

事務局) 施設設備の改修は公費から支出するのが基本である。

委員) みなにメリットがあるような使い方がしたい。PTAとしても協力させていただきたい。

○まとめのあいさつ

会長) 本日の協議会ではメインテーマが2つあった。いずれについても柴島高校はぶれていない。そのことが確認できてよかった。

7 第3回学校運営協議会について

2月20日(月) 15:00~17:00で開催予定